

第1部 研究の概要

1 はしがき

本科研は、平成4年度から同6年度までの3カ年間に亘って受けた科学研究費補助金総合研究（A）『古文書料紙原本にみる材質の地域的特質・時代的変遷に関する基礎的研究』の研究成果を踏まえて、新たな課題を設定して取り組んだものである。当初は平成15年度から同18年度までの4カ年計画とし、平成15年度に基盤研究（A）『紙素材文化財（文書・典籍・聖教・絵図）の年代推定に関する基礎的研究』として採択されたが、平成17年度の秋に最終年度前年度における計画変更を申請し、平成18年度に同様の課題名で同19年度までの延長が認められた。本報告は、計画変更前の平成15年度から同17年度までの3カ年分の研究にかかる研究報告書である。

前科研総合研究（A）『古文書料紙原本にみる材質の地域的特質・時代的変遷に関する基礎的研究』では、日本中世における古文書の料紙として、原料の違いから見た紙の種類でいえば、平安時代中期から戦国時代に至る中世全時代に亘って、文書料紙には楮を原料とする楮紙を主に用いていること、楮紙のうちでは、製法の違いから見た紙種でいえば、鎌倉時代までは檀紙や引合を多く使用し、南北朝時代以降は杉原紙・強杉原を主に使用していることを明らかにした。また、雁皮を原料とする斐紙は、主として南北朝時代と戦国時代とにおいて、武家発給の文書に用いられたことをも指摘した。このように、日本中世における文書料紙の変遷とその全体像を、今日に伝存している文書原本について、光学的な観察と物理的な計量を行ない、さらに古文献に叙述されている文書料紙に関する記事を検討し、曲がりながらもそのおおよそを解明できた。

本科研は、以上のような前科研の研究成果を発展させ、文書料紙が中世から近世へどのように変化するのか、文書の料紙と典籍・聖教・絵図のそれとはどのように関係しているのか、また日本の文書料紙と中国大陸・朝鮮半島のそれらとどのように相違しているのか、という問題を課題として、前科研と同様、光学的な観察と物理的な計量に基づき、さらに発展した問題意識をもとに、その研究を行ってきた。そして、文書等文献資料の料紙を観察することにより、製作年代の記述がない文書正文や書写年代の明示のない案文等について、その制作された年代を推定できるよう、その判断基準を作ることを目的として、研究を進めてきたのである。

その結果、この3年間では、まず非破壊の光学的観察による紙質の判定方法

について、その試案を固めることができた。しかし、これは今後さらに精度の高い判定方法を模索していくための叩き台にすぎない。今後、これをもとに広く関係者の議論が高まるのを期待したい。

本報告では、まず古文書料紙用語の共通認識について具体的な問題提起をしている林議の「古文書料紙の使用法覚書—御判御教書と御内書—」を、製紙技術研究の専門家の立場から古文書料紙を判定するための基本知識を提供する大川昭典「楮・三桮・雁皮繊維の鑑別」・「文書料紙の填料の観察」を、文化財調査研究者らが文書・典籍・聖教等の調査現場で顕微鏡等光学器械のみで料紙判定するときの判定法の提案として富田正弘「紙素材文化財の料紙判定法について」を、古代から江戸時代まで、古文書料紙から装飾紙まで、さらに大きな観点から和紙文化の捉え方の展望を述べた湯山賢一「料紙論と和紙文化」を掲載して、当該研究の中間報告としたい。

また、日本と周縁国との製紙技術の交流や文書等の料紙使用法の相違については、取り敢えず、今は日本国に編入されて沖縄県（一部は鹿児島県奄美大島）と呼ばれているが、前近代では外国であった琉球国における政治文書を素材に、その特徴を考えてみた。富田正弘「琉球国発給文書と竹紙」はその1つの報告である。これをステップにして、今後中国・韓国・台湾辺りとの製紙技術の交流と料紙使用法の相違について考えていきたいと思っている。

最後の料紙調査データには、富田論文に漏れた琉球国辞令書を補充した一覧を載せ、今後の補充調査の目標を設定しておいた。また、東寺百合文書に所収の「後七日御修法修僧交名」の料紙データは、中世近世の公驗文書の料紙を逐年で追える資料であろうから、ここにそのデータを提供しておきたい。

2 研究組織

- 研究代表者 : 富田 正弘 (富山大学人文学部教授)
- 研究分担者 : 湯山 賢一 (奈良国立博物館館長)
- 研究分担者 : 三輪 嘉六 (九州国立博物館設立準備室長)
- 研究分担者 : 増田 勝彦 (昭和女子大学教授)
- 研究分担者 : 大川 昭典 (元高知県紙産業技術センター第二技術部長)
- 研究分担者 : 岡 岩太郎 (岡墨光堂社長)
- 研究分担者 : 永村 眞 (日本女子大学文学部教授)
- 研究分担者 : 綾村 宏 (奈良文化財研究所歴史研究室長)
- 研究分担者 : 藤井 譲二 (京都大学大学院文学研究科教授)
- 研究分担者 : 大藤 修 (東北大学大学院文学研究科教授)
- 研究分担者 : 水本 邦彦 (京都府立大学文学部教授)
- 研究協力者 : 保立 道久 (東京大学史料編纂所教授)
- 研究協力者 : 石上 英一 (東京大学史料編纂所教授)
- 研究協力者 : 林 譲 (東京大学史料編纂所教授)
- 研究協力者 : 山本 隆志 (筑波大学大学院文学研究科教授)
- 研究協力者 : 吉川 聡 (奈良文化財研究所歴史研究室研究員)
- 研究協力者 : 池田 寿 (文化庁美術学芸課主任文化財調査官)
- 研究協力者 : 石川登志雄 (京都府文化財保護課文化財専門員)
- 研究協力者 : 江前 敏晴 (東京大学大学院農学生命科学研究科助教授)
- 研究協力者 : 藤田 励夫 (九州国立博物館保存修復室長)
- 研究協力者 : 横内 裕人 (東大寺図書館研究員)
- 研究協力者 : 有坂 道子 (橘女子大学専任講師)
- 研究協力者 : 角屋由美子 (米沢市上杉博物館主任学芸員)
- 研究協力者 : 地主 智彦 (京都府文化財保護課技師)
- 研究協力者 : 新見 康子 (東寺宝物館学芸員)
- 研究協力者 : 高橋 修 (山梨県立博物館学芸員)
- 研究協力者 : 橋本 雄 (九州国立博物館研究員)
- 研究協力者 : 鈴木 裕 (京都国立博物館文化財修理所装?師)
- 研究協力者 : 磯崎 裕子 (和紙・紙布製作者)

海外共同研究者：劉 曉峰（中国清華大学人文学院副教授）

海外共同研究者：朴 智善（韓国龍仁大学校文化財保存学科教授）

協力機関： 京都府立総合資料館

協力機関： 米沢市上杉博物館

協力機関： 東大寺図書館

協力機関： 東京大学史料編纂所

協力機関： 東福寺

協力機関： 醍醐寺

協力機関： 教王護国寺

協力機関： 大徳寺

協力機関： 高知県紙産業技術センター

協力機関： 文化庁美術学芸課

協力機関： 東京国立博物館

協力機関： 九州国立博物館

協力機関： 国立歴史民俗博物館

協力機関： 国立国文学研究資料館

協力機関： 東京大学経済学部資料室

協力機関： 京都大学中央図書館

協力機関： 東北大学中央図書館

協力機関： 名古屋大学附属図書館

協力機関： 筑波大学中央図書館

協力機関： 山形大学中央図書館

協力機関： 沖縄県立博物館

協力機関： 沖縄県公文書館

協力機関： 神奈川県立公文書館

協力機関： 神奈川県立歴史博物館

協力機関： 栃木県立博物館

協力機関： 石垣市八重山博物館

協力機関： 平良市総合博物館

協力機関： 久米島自然文化センター

協力機関： 多良間村ふるさと民俗学習館

協力機関： 白河市歴史民俗資料館

協力機関： 彦根市彦根城博物館

協力機関： 福岡市博物館

協力機関： 名瀬市立奄美博物館
協力機関： 瀬戸内町図書館・郷土館
協力機関： 宇検村教育委員会

協力機関： 中国清華大学中央図書館
協力機関： 中国西北大学文博学院
協力機関： 中国第一歴史档案館
協力機関： 中国社会科学院
協力機関： 中国上海博物館

協力機関： 韓国中央博物館
協力機関： 韓国韓国学中央研究院蔵書閣
協力機関： 韓国啓星紙の博物館

3 交付決定額（配分額）

（金額単位：円）

年度	直接経費	間接経費	合計
平成15年度	6,330,000	3,090,000	10,300,000
平成16年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
平成17年度	8,800,000	2,640,000	11,440,000
総計	19,830,000	7,140,000	26,970,000

4 研究発表

(1) 雑誌論文

- 富田正弘 中世の組織体と記録
国立国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学』2003
- 大藤 修 近世の社会・組織体と記録
国立国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学』2003
- 永村 眞 中世寺院史料とその「目録」
国立国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学』2003
- 増田勝彦 海外における修復技術の発展
国立国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学』2003
- 藤井譲治 正保日本図について
藤井譲治等編『絵図・地図から見た世界像』2003
- 藤井譲治 徳川将軍領知朱印状の古文書学的位置
『古文書研究』59号 2004
- 永村 眞 和紙に見る日本の文化遺産
『醍醐春秋』44号 2004
- 湯山賢一 和紙に見る日本の文化
『和紙に見る日本の文化—醍醐寺史料の世界—』 2004
- 劉 暁峰 書名の漂白 『読書』2004-10 2004
- 藤井譲治 秀忠親政期の領知朱印状
『京都大学文学部研究紀要』43号 2005

- 大藤 修 小経営・家・共同体
『日本史講座』第6巻 2005
- 富田正弘 近世東大寺の国家祈祷と院宣・繪旨
綾村宏科研報告『東大寺所蔵聖教文書の調査研究』 2005
- 綾村 宏 東大寺図書館聖教文書の概要と収蔵庫四号室所在分の調査
綾村宏科研報告『東大寺所蔵聖教文書の調査研究』 2005
- 大藤 修 近世文書の様式と身分格式・官僚制
日本歴史学会編集『日本歴史』691号 2005
- 富田正弘 中世における紙の流通
湯山賢一編『文化財額の課題—和紙文化の継承—』 2006
- 永村 眞 醍醐寺聖教とその料紙—特に緒紙打紙に注目して—
湯山賢一編『文化財額の課題—和紙文化の継承—』 2006

(2) 学会発表

- 富田正弘 古文書料紙の調査について
東京大学史料編纂所 所員研究集会
於東京大学史料編纂所 2003
- 富田正弘 琉球国辞令書の料紙について
沖縄の紙を考える会
公開シンポジウム「沖縄の紙資料から見えてくるもの」
於浦添市美術館 2006
- 大川昭典 琉球紙の素材について
沖縄の紙を考える会
公開シンポジウム「沖縄の紙資料から見えてくるもの」
於浦添市美術館 2006

(3) 図 書

永村真『和紙に見る日本の文化—醍醐寺史料の世界—』 2004

湯山賢一編『文化財学の課題—和紙文化の継承—』 2006